平成 28 年度

紀要

仙台市中学校長会

目　　次

巻頭言　・・・・　仙台市中学校長会長　　熊谷　祐彦　　１

平成２８年度仙台市中学校長会活動方針　・・・・・・・　　２

１　各部の活動概要

（１）　総　務　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　３

（２）　研　究　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　４

（３）　教育課題部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　５

（４）　研　修　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　６

（５）　人　事　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　７

（６）　情　報　部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　８

（７）　行 財 政 部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　９

（８）　生徒指導部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

２　研究調査等報告　　教育課題部

（１）　復興ＤＶＤに係る活用状況調査の分析とその結果
・・・・・・・・・・・・・　１１～１２

（２）　安全で安心な学校づくりの実現
～自己肯定感低下の背景～
・・・・・・・・・・・・・　１３～１４

（３）　学びの連携を生かした学校づくりの推進
～保護者・地域・他校種との連携をどう進めるか～
・・・・・・・・・・・・・　１５～１６

（４）　仙台市中学校・教員対象の防災教育のアンケート
調査のまとめ　・・・・・・・・・・・・・　１７～２０

＜巻頭言＞

これからの中学校教育に思うこと

仙台市中学校長会長　熊　谷　祐　彦

現在，教育改革は加速度的で，しかも大きく変わろうとしております。平成２８年１月には仙台市の『教育の振興に関する施策の大綱』が策定され，その『大綱』を踏まえて，『第２期仙台市教育振興基本計画』も本年度中に定められます。また，来年度からは，政令都市への権限移譲が始まります。いじめ防止対策，道徳の教科化，小学校英語の教科化を含め，アクティブ・ラーニング等の具体的な在り方を盛り込んだ新学習指導要領改訂作業が進行中です。一方では，学校段階間の連携・一貫教育の在り方などなど教育制度の根幹に関わる改善も着実に前進しており，学校教育は大きな局面を迎えております。

我々は，新たな潮流を読み取り，理解しながら，しっかり準備をして，仙台市２万７千人の生徒のために，誠心誠意努めていかなければなりません。しかし，不易・流行という言葉があります。一般的に普遍のものを不易。その時代によって変わるものを流行と表現されます。私たち中学校長における不易流行とは何でしょうか。今我が国の教育の状況は大変速いスピードで，且つ大きく変わりつつある中で，私たちは，何が不易で何が流行かをしっかりと見極め，変わるべき点，そして変えるべき点と，変えてはいけない本質的な点に，適時性をもって対応しなければならないと考えます。

変化の時期だからこそ，様々は改革の正しい情報を得ながら，理論的な理解は欠かせません。しかし，それは当然のことで，大切な事は，いかに実践していくかという点であろうと思います。校長のリーダーシップが問われます。では，校長に求められるもリーダーシップとはどのようなものでしょうか。私は，やはり昔から変わらぬ，教職員の本気とやる気を引き出す仕掛けだと考えます。

この変革を乗り切っていくためには，全職員が一体となり，組織的に取り組むことが重要です。また，教職員一人一人がやる気を持って意欲的に働ける職場づくりが欠かせません。その鍵となる点は，校長が教職員の能力を見極めながら，それぞれ教職員応じて，学校経営に参画しているのだという意識を持たせることだと考えます。校長が一定の方向性を示しながら，教職員からアイデアを出させ，実行させ，賞賛し，評価し，改善を行っていけば，教職員に企画・運営を通して学校経営の意思決定過程に参画しているという意識が芽生えていきます。彼らの納得と理解を得ながら，教員全体で共有されたビジョンが形成され，結果的に彼らのモチベーションを高め，組織への貢献意欲を高めることにつながっていくと考えます。教職員の自己評価を基に，その教員の資質・能力となる点に着目し，それを賞賛するとともに『この学校で，あなたのことを必要としている』というメッセージをできるだけ発信することが必要です。仙台市には教育活動改善シート時の面談があります。その時期だけでなく，機会を捉えてはコミュニケーションに努め，ベテランには中堅・若手教員の育成と学校運営についてのこれまでの知識と経験を活かしてもらい，中堅には次代を担うリーダーとしての責任と行動を，そして若手には，教職員の一員としての自覚と自立を促したいものです。

『組織は人なり』という言葉があるように，学校で働く教職員一人一人が，自分の持ち味を最大限に発揮できる職場づくりが，この改革の時期を乗り切る鍵になると考えます。

本年度は，全日本中学校長会，東北地区中学校長会主催の第６７回全日本中学校長会研究協議会宮城大会が開催されました。文部科学省，宮城県，仙台市，県内各市町村そして各教育委員会の皆様の御協力を賜り，成功裏に終了することができましたが，宮城県中学校長会と仙台市中学校長会の強固の連携の下，この大会運営が行われたことは特筆すべき点であると思います。これまで以上に緊密な連携が構築できたものと確信しております。

最後になりますが，この１年間会員の皆様には微に入り細に入り，随所で御尽力いただきましたことに感謝申し上げます。そして，来年度開催の大都市中学校長会連絡協議会仙台大会の大成功を祈念し挨拶とさせていただきます。

平成２８年度 仙台市中学校長会活動方針

今日，我が国では，少子高齢化及び国際化，高度情報化などによる諸課題に対応するとともに，真に豊かで活力ある社会の実現を目指して，様々な改革が進められている。このような中，我が国の教育には，豊かな人間性と創造性を育むとともに，国際社会に貢献できる国民の育成が求められている。

私たち校長は，中学校教育に課せられた責務と市民の期待を深く認識し，全日中教育ビジョン『学校からの教育改革』の理念を踏まえ，本市の教育の振興に関する施策の大綱及び仙台市教育振興基本計画に基づく学校づくりを推進しなければならない。また，東日本大震災から５か年が経過し，「創造ある復興」のさらなる充実に取り組んでいかなければならない。

仙台市中学校長会は，校長としてのこれらの職責を自覚し，本市中学校教育のさらなる充実・振興を目指して，本会会則及び次の重点項目に基づき本会の運営に当たる。

１　校長会の機能を一層充実させ，活動の活性化に努める。
(1)　校長相互の連絡・情報交換，及び連携の強化
(2)　学校経営能力向上のための研究協議及び研修の充実
(3)　宮城県中学校長会及び宮城県・仙台市小学校，公立・私立高等学校の校長会との連携の強化
(4)　行政や関係諸機関との連絡・調整及びそれらへの積極的な提言
(5)　各部における諸活動の積極的な展開
(6)　市民・保護者への積極的な情報発信

２　学習指導要領に基づき，創意ある教育課程を編成・実施し，生きる力を育む教育の推進に努める。
(1)　基礎的・基本的な知識・技能の習得及び思考力・判断力・表現力等の応用力の育成並びに学習意欲の向上を図る指導と評価の工夫
(2)　問題解決能力，創造力を育てる指導の工夫
(3)　豊かな心と健やかな体を育む指導の工夫

３　教育の振興に関する施策の大綱及び仙台市教育振興基本計画に基づき，子どもたちの可能性を広げる教育を推進する。
(1)　学びの連携や協働型学校評価の推進などによる「地域とともに歩む学校」づくり
(2)　仙台市標準学力検査や生活・学習状況調査などを活用した確かな学力の育成
(3)　芸術・自然体験活動や内面に根ざした道徳教育の推進による豊かな心の育成
(4)　体力・運動能力向上の取組や食に関する指導などによる健やかな体の育成
(5)　社会的・職業的自立を目指した「仙台自分づくり教育」の推進
(6)　障害のある生徒一人一人の教育的ニーズを把握した特別支援教育の推進

４　当面する教育課題の解決に努める。
(1)　学校いじめ防止基本方針に基づくいじめを許さない学校体制といじめの早期発見の確立
(2)　不登校の未然防止と支援体制の強化
(3)　豊かな心の育成を中核とする生徒指導の推進
(4)　ＯＪＴをはじめとした校内研修や学校職員評価などによる教職員の力量の向上
(5)　安全･安心な学校づくりを目指しての家庭及び地域との連携の強化
(6)　防災意識の高揚と防災教育・防災体制の一層の充実
(7)　震災による心のケアや「故郷復興プロジェクト」の継続，及びボランティア精神の育成
(8)　学校業務の見直しや校務処理の改善・効率化などによる教職員が子どもに向き合える体制づくり
(9)　学校職員の不祥事根絶を目指したスクールコンプライアンス校内研修の強化

５　多様な教育活動を推進するため，教育諸条件の整備・充実を期する。
(1)　全学年における35人学級の早期実現
(2)　学習指導要領に対応した教職員定数の改善，及び主幹教諭の定数外配置と配置拡大
(3)　免許外教科担任の解消や少人数指導の充実及び特別支援教育充実のための非常勤講師等の拡充
(4)　教職員の人材育成及び特色ある学校づくりのためのシステムの構築
(5)　施設･設備の充実と教材備品の整備
(6)　地域とともに歩み，特色ある学校づくりのための条件整備に関する校長裁量の拡大と教育振興費の増額

６　教職員が意欲的に職務に向き合えるために，待遇改善の実現を期する。
(1)　「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持
(2)　諸手当を含む給与体系の改善
(3)　退職後の生活設計に関する体制の整備・改善・拡充

１　各部の活動概要

（１）　総　務　部

（２）　研　究　部

（３）　教育課題部

（４）　研　修　部

（５）　人　事　部

（６）　情　報　部

（７）　行 財 政 部

（８）　生徒指導部

総　務　部

部長　　鈴　木　芳　夫

1　活動目標

仙台市中学校長会の活動方針や宣言・決議を踏まえ，様々な要望や提言の取りまとめを行い，活動全体計画及び各部間の連絡調整を図りながら，仙台市中学校長会の能率的かつ円滑な運営に努める。

2　活動内容

(1)　各部会の諸機関等への要望や提言をまとめ，その窓口となる。
　①　仙台市教育委員会等への提言の作成及び渉外に関する事項
　②　その他の事項
(2) 年度の活動目標・行事予定・事業計画を立案する。
(3) 例会や各種会議等の準備や計画を立案する。
(4) 各部会間等の連絡調整に当たる。
(5) 全国中学校長会，東北地区中学校長会，大都市中学校長会の情報を的確に把握し，会員に伝達する。
(6) 福利厚生や親睦会に関する計画や準備を行い，実施する。
(7) 市中学校長会総会要項を編集し発行する。
(8) 中高（公・私）連絡会に関する事項
(9) 県市連絡協議会に関する事項
(10) その他

3　活動の概要

(1)　第１回総務部会〔教育センター〕
　　４月１５日（金）
　部員顔合わせ，副部長の選出，活動目標，活動計画，係分担等についての検討等
(2)　仙台市中学校長会総会〔Ｈ白萩〕
　　４月２２日（金）
(3)　第２回総務部会〔Ｈ白萩〕
　　４月２２日（金）
　仙台市中学校長会総会の反省会等
(4)　学校教育の充実に関する小中合同研修会
　　〔教育センター〕
　７月１１日（火）提言書素案の検討
　７月２０日（水）同上
　７月２８日（木）同上
　８月１９日（金）　〔仙台ｻﾝﾌﾟﾗｻﾞ〕
(5)　小中教研合同講演会
　　主担当：中教研
(6)　市教委への提言書提出〔市議会議事堂〕
　　８月１０日（水）　主担当：小学校
　「仙台市小・中学校教育の充実について（提言）」
(7)　中高（私）連絡会　　〔Ｈ白萩〕
　　９月　２日（金）　主担当：中学校
(8)　中高（公）連絡会　　〔Ｈ白萩〕
　　９月　９日（金）　主担当：中学校
(9)　第６７回全日本中学校長会研究協議会
　宮城大会
　　〔主会場：仙台サンプラザ〕
　１０月１９日（水）～２１日（金）
(10)　第７３回大都市中学校長会連絡協議会
　京都大会　〔ホテルグランヴィア京都〕
　１１月１０日（木）～１１日（金）
　交通，宿泊等連絡調整（１７名参加）
(11)　小中学校長会懇親会　　〔Ｈ白萩〕
　１１月２４日（木）
　小学校と合同開催　　主担当：中学校
(12)　全日中宮城大会運営委員会　〔Ｈ白萩〕
　①　４月１４日（木）
　②　５月２０日（金）
　③　６月　３日（金）
　④　７月　１日（金）
　⑤　８月　３日（水）
　⑥　９月１４日（水）
　⑦１０月　６日（木）
(13)　県・市連絡協議会　　〔Ｈ白萩〕
　①　５月２０日（金）　主担当：仙台市
　②　９月１４日（水）
　③　１月２３日（月）
(14)　第３回総務部会　　〔Ｈ白萩〕
　　３月　７日（火）
　年間の反省と次年度の計画等
(15)　その他（各例会時における準備等）

＜総務部員＞

部　長	鈴　木　芳　夫	（台　原　中）
副部長	手　塚　健　太	（岩　切　中）
部　員	平　塚　好　伸	（宮城野中）
部　員	阿　部　嘉那子	（北仙台中）
部　員	髙　橋　順　子	（桜　丘　中）
部　員	久　世　達　也	（西　山　中）
部　員	升　澤　俊　生	（向陽台中）
部　員	佐　藤　郷　美	（南吉成中）

研　究　部

部長　　佐　藤　邦　宏

1　活動目標

平成29年度第74回大都市中学校長会連絡協議会（仙台大会）における情報交換・研究協議に向け，準備委員会の企画・方針の下，各部と連携して準備に当たる。

2　活動内容

(1) 大都市校長会連絡協議会（仙台大会）の３つの分科会の発表に向け，９つの協議題の吟味，事前調査項目の検討，情報収集，資料分析，発表内容の準備等を行う。

・Ａ分科会「学校運営上の諸問題に関する内容」
・Ｂ分科会「教育指導上の諸問題に関する内容」
・Ｃ分科会「大都市特有の諸問題に関する内容」

3　活動概要

(1) ４月１５日(金) 第１回部会
・副部長の選出
・活動目標，活動内容の確認

(2) ７月　５日(火) 第２回部会
・大都市中学校長会連絡協議会の概要
・３つの協議題の確認
・Ａ分科会協議題，事前調査項目の検討

(3) ７月２１日(木) 第３回部会
・Ａ分科会協議題，事前調査項目について，神戸大会，広島大会の内容を確認
・Ａ分科会協議題，事前調査項目について内容の検討

(4) ８月　２日(火)
・Ａ分科会協議題，事前調査項目について，研究部の案のとりまとめ

(5) ８月１５日（月）
・Ａ分科会協議題，事前調査項目案に関する部長，副部長の協議

(6) ８月３０日(火)
・大都市中学校長会研究部長，副部長と，Ａ，Ｂ，Ｃ３分科会協議題担当（研究部長，研修部長，教育課題部長）で，各分科会の協議題，事前調査項目を摺り合わせ

(7) １１月１０日(木)，１１日（金）
・大都市中学校長会連絡協議会京都大会参加（研究部３名）
・Ａ分科会の事前調査項目について，協議における取り扱いについて確認
・仙台大会のＡ分科会協議題，事前調査項目について，部長・副部長で協議

(8) 12月　６日(火) 第４回部会
・仙台大会Ａ分科会協議題，事前調査項目の最終確認
・仙台大会における話題提供について，研究部として２本（「人材育成」「学校地域支援本部」）を担当することを確認
・話題提供者の依頼

＜研究部員＞

部　長	佐　藤　邦　宏	（第　二　中）
副部長	佐々木　靜　輝	（三　条　中）
部　員	佐々木　成　行	（第　一　中）
部　員	志　賀　茂　伸	（六　郷　中）
部　員	境　野　百合子	（八木山中）
部　員	小　畑　研　二	（中　山　中）
部　員	若　狭　友　子	（人来田中）
部　員	髙　倉　祐　一	（加　茂　中）
部　員	今　野　　隆	（松　陵　中）

教育課題部

部長　　髙　橋　教　義

1　活動目標

多様な教育改革が進む中，当面する教育課題を直視して解決すべき調査研究等を行い，学校運営に資するよう提言する。

2　活動内容

（１）平成２８年度仙台市中学校長会活動方針前文及び４「当面する教育課題」を受けて，仙台市における喫緊の今日的教育課題の調査分析と検討を行う。

（２）課題の絞り込みと必要な調査を行い，部員相互による協議を重ね，提言をまとめる。

（３）震災後の取組の記録の蓄積や防災教育の資料作成と調査分析に努める。

3　研究テーマ

（１）防災教育の現状や今後に関するアンケート調査の実施と分析，提言を行う。

（２）東日本大震災からの創造ある復興に向けた新たな取組（ＤＶＤの検証）等を進める。

（３）震災直後から今日まで各校が取り組んだ内容の記録と調査研究を集積する。

（４）公立入試制度の課題や私立入試制度・事務手続きの改善状況を探り，話題提供する。

（５）安全・安心な学校づくりや学びの連携について取組と優れた事例集積と周知を図る。

4　活動計画と経過

4.15　教育センター(第１回)：副部長の選出，役割分担，活動内容と計画を確認

5.27　教育センター(第２回)：本年度活動予定内容の詳細検討

7.1　教育センター(第３回)：防災教育のアンケート，復興ＤＶＤ活用･感想・事例，安全・安心な学校づくりと学びの連携を生かした学校づくりに関する調査研究の検討協議

9.2　ホテル白萩：私立高等学校長連絡会で，防災教育アンケート調査分析結果を発表

9.6　教育センター(第４回)：防災教育のアンケート集計概要確認，復興ＤＶＤの活用状況等の結果，安全・安心な学校づくりと学びの連携に向けた学校づくりの調査を検討

10.18　教育センター(第５回)：DVD 活用，防災教育の調査，安全・安心な学校づくりと学びの連携に関する調査結果等について協議

12.1　教育センター(第６回)：各調査の分析結果の協議と紀要の掲載内容と分担執筆を決定 12 月例会で発表する内容と担当を検討

12.6　教育センター(第７回)：12 月例会にて，本部会の４つの調査分析結果を発表

12.15　教育センター(第８回)：研究紀要原稿の検討と次年度の取組内容を検討

3.1　教育センター(第９回)：次年度の取組を協議検討し，次年度の活動方針と計画を作成 今後の県立高校入試制度に関する調査研究

5　提案事項と今後の取組

（１）防災教育の目的や実践の現状と今後及び防災教育に関する教員の意識調査を市内全員・対象に行い，昨年度の調査との比較分析も含め，様々な提言ができた。

（２）昨年度「創造ある復興」に向けて DVD 第Ⅱ集・第Ⅲ集を作成し，故郷復興プロジェクト等で活用した状況を調査した。優れた活用方法等の事例の周知も図っている。また，これまで集めた，東日本大震災後における各校独自の取組等の画像データは，今後も有効活用していきたい。

（３）安全・安心な学校づくりの実現に向けて，自己肯定感の視点から調査研究を行い，その分析結果から本市の抱える課題を抽出した。

（４）学びの連携を生かした学校づくりに関する調査研究を行い，本市の取組状況と課題を明らかにすることができた。

（５）教育課題部本来の研究対象である「本質的で喫緊の教育課題」とは何かを改めて問い直し，次年度のスタートを切りたい。

＜教育課題部員＞

部　長	髙　橋　教　義	(郡 山 中)
副部長	數　本　芳　行	(広 瀬 中)
部　員	横　山　信　治	(西多賀中)
部　員	平　塚　美　保	(山 田 中)
部　員	菊　地　　篤	(将監東中)
部　員	齋　藤　栄　一	(茂庭台中)
部　員	土　田　　茂	(中 野 中)
部　員	齋　藤　誠　治	(住吉台中)
部　員	齊　　隆	(宮教大附属中)

研　修　部

部長　　渡　邊　　誠

1　活動目標

（1）今日的な教育課題に対応し，改善を図るための研修の企画・運営を行う。

（2）学校経営の参考となる研修の企画・運営を行い，会員の資質向上を図る。

2　活動内容

（1）各種研修の企画・運営を行い，会員相互の研鑽を深める。

（2）例会時の研修の充実を図るとともに，部会内の分担に基づく計画的な運営を行う。

（3）各部との連携を通して今日的課題を明確化し,解決の方策や指針を探る研修を実施する。

3　活動の概要

（1）　4月　5日（火）　臨時校長会
・第１回研修部会（年間計画・係分担）

（2）　5月３１日（火）　例会　第１回研修会
・平成 29 年度 大都市中学校連絡協議会準備委員会
・上記協議会プロモーションビデオ制作

（3）　7月　5日（火）　例会　第２回研修会
・大都市中学校連絡協議会準備委員会
・全体説明，各部会の打合せ

（4）　7月２９日（金）　第１回新会員研修会
「学校運営・人事ヒアリング」
講師　校長会副会長　米澤　通徳　校長
人事部長　　日置　利道　校長

（5）　9月１３日（火）　例会　第３回研修会
・＜行財政部との共催＞
「学校事務適正化について」
講師　学校事務適正指導チーム
小野寺　康一　氏

（6）１０月４日（火）　例会　第４回研修会
・＜生徒指導部との共催＞
「LD・ADHD 等通級指導教室」
講師　五城中学校 伊藤　陽子 教諭
・第２回研修部会（分担案確認）

（7）１０月３１日（月）　第２回新会員研修会
「人事異動の理念と実務について」
講師　人事部長　日置　利道　校長

（8）１１月　1日（火）　例会　第５回研修会
・＜生徒指導部との共催＞
「児童生徒の携帯電話の利用実態の把握と適切な指導」
講師　宮城教育大学情報処理センター
教授　鵜川　義弘　氏

（9）１２月　6日（火）　例会　第６回研修会
・＜教育課題部との共催＞
「復興 DVD の活用状況と防災教育等調査分析結果」
・大都市中学校連絡協議会準備委員会

(10)　1月１７日（火）　例会　第７回研修会
・＜生徒指導部との共催＞
「いじめ対策専任教諭の活用と今後の課題」
各区の協議と事案の共有

(11)　2月　7日（火）　例会　第８回研修会
・大都市中学校連絡協議会準備委員会

(12)　3月　7日（火）　例会　第９回研修会
①　年間活動報告　～各部より～
②　各部ごとの反省と次年度計画案検討

4　その他

次年度も各部との連携を図りながら，学校経営に資する研修を実施していきたい。

＜研修部員＞

部　長	渡　邊　　誠	（幸 町 中）
副部長	遠　藤　裕　子	（南光台中）
部　員	伊　藤　譲　治	（鶴が丘中）
部　員	千　葉　　剛	（仙台青陵中等）
部　員	柴　田　裕　之	（高 砂 中）
部　員	佐　藤　　全	（袋 原 中）

人　事　部

部長　　日　置　利　道

1　活動目標

（1）人事に関する現状把握と課題の分析
（2）人事裁量枠の拡大と配置の適正化

2　活動内容

（1）人事に関する現状の調査と課題等の分析
①教職員構成状況
②免許外教科担当状況
③新採用教職員配当状況
④人事に関する要望事項他

（2）１月臨時校長会の運営
①人事異動基本調査の実施
②１月臨時校長会の資料作成
③１月臨時校長会の運営

3　活動概要

（1）第１回部会　　４月１５日（金）
①副部長選出，役割分担
②活動目標と年間計画立案
③人事に関する調査内容の検討(1)

（2）臨時部会　　４月２５日（月）
①人事に関する調査内容の検討(2)

（3）第２回部会　　５月３１日（火）
①「人事に関する調査」の集約

（4）第３回部会　　６月　８日（水）
①「人事に関する調査」の結果分析
②印刷，製本

（5）校長会例会　　７月　５日（火）
①「人事に関する調査」結果の報告

（6）臨時部会　　７月　５日（火）
①人事異動基本調査内容の検討(1)
②人事調整会の運営計画(1)

（7）新会員研修会　　７月２９日（金）
①「人事ヒアリング，需要見込み」研修
講師　人事部長

（8）第４回部会　　８月３０日（火）
①人事異動基本調査内容の検討(2)
②人事調整会の運営計画(2)

（9）新会員研修会　　１０月３１日（月）
①「人事異動関係」研修
講師　人事部長
②「人事異動基本調査及び調整会」研修
講師　人事部長

(10) 第５回部会　　１１月１６日（水）
①人事異動基本方針に関する共通理解
②人事異動基本調査の最終確認
③１月臨時校長会運営の準備計画

(11) 第６回部会　　１２月　７日（水）
①人事異動基本方針に関する共通理解
②人事異動基本調査の集計
③１月臨時校長会資料作成，進行計画，役割分担
④市教委との打ち合わせ

(12) １月臨時校長会　　１月　６日（金）
①臨時校長会の運営
②臨時校長会運営の反省

(13) 第７回部会　　３月　７日（火）
①平成２８年度部会の反省
②平成２９年度の活動計画

＜人事部員＞

部　長	日　置　利　道	（田子中）
副部長	寺　田　　潤	（吉成中）
部　員	岡　崎　　徹	（五橋中）
部　員	太　田　幸　蔵	（大沢中）
部　員	中　　秀　司	（根白石中）
部　員	門　脇　俊　弥	（八乙女中）
部　員	佐　藤　修　子	（高森中）

情　報　部

部長　　吉　岡　康　則

1　活動目標

(1) 仙台市中学校長会 Web ページ・ブログ（NEWS）を更新し，広報活動に努める。

(2) 必要に応じて適切な情報を会員に提供するように努める。

(3) 仙台市中学校長会メーリングリストの効果的な運用に努める。

(4) 仙台市中学校長会「紀要」を作成し，関係諸機関に配付する。校長会の Web ページに掲載し，会員に提供する。

2　活動内容

(1) 仙台市中学校長会 Web ページ・ブログ（NEWS）を更新する。

(2) 各部との連携を図り，資料の収集や適切な情報提供を行う。

(3) 仙台市中学校長会の諸連絡や研究調査等の記録，校長会案内文書等を Web ページに掲載する。

(4) 仙台市中学校長会メーリングリストによる連絡や情報を配信する。

(5) 仙台市中学校長会「紀要」を作成し，関係諸機関に配付するとともに校長会の Web ページに掲載し，会員に提供する。

3　活動の概要

(1) 第１回情報部会　　４月１５日（金）

平成２８年度「情報部組織，活動目標，活動内容」の検討・確認

副部長の選出，役割分担の決定，連絡網の確認，情報部会開催日の確認

(2) 第２回情報部会　　７月　５日（火）

活動内容の確認，Web ページ更新及び更新のための研修

メーリングリスト，ブログ，Web ページのアカウント，アドレス等の確認と更新のための実技講習会実施（ホームページビルダー，FTP ツールによるコンテンツの転送方法，Serene Bach の更新方法など）

(3) 第３回情報部会　　９月１３日（火）

仙台市中学校長会 Web ページ・ブログの更新，コンテンツ等の作成

(4) 第４回情報部会　　１０月　４日（火）

仙台市中学校長会 Web ページ・ブログの更新

仙台市中学校長会「紀要」編集について（編集方針，編集計画，編集内容，発刊方法，業者選定，役割分担，原稿依頼等）

(5) 第５回情報部会　　１０月２５日（火）

仙台市中学校長会 Web ページ・ブログの更新

仙台市中学校長会「紀要」編集計画の確認

(6) 第６回情報部会　　１月１７日（火）

仙台市中学校長会「紀要」一次校正（回収した原稿の誤字脱字等のチェック等）

仙台市中学校長会 Web ページ・ブログの更新，コンテンツ等の作成

次年度「活動目標，活動内容」等の検討

(7) 第７回情報部会　　２月　７日（火）

仙台市中学校長会「紀要」二次校正（一次校正した原稿を再度チェック，原稿の PDF 化，表紙デザイン作成）

仙台市中学校長会Ｗｅｂページ・ブログの更新，コンテンツ等の作成

(8) 第８回情報部会　　３月　７日（火）

今年度の反省と次年度の計画

仙台市中学校長会「紀要」完成及び校長会 Web ページへの掲載（2/28）の報告

4　その他

仙台市中学校長会「紀要」の発行については，平成 26 年度より，関係諸機関への配付分のみを冊子として印刷し，市中校長会 Web ページ内に「紀要」のデータを掲載して閲覧できるようにすることで，会員個々への紀要の配付は行わないこととした。

＜情報部員＞

部　長	吉　岡　康　則	（南光台東中）
副部長	亀　倉　靖　宏	（上杉山中）
部　員	遠　藤　武　彦	（愛　宕　中）
部　員	本　郷　栄　治	（沖　野　中）
部　員	大　谷　　徹	（将　監　中）
部　員	山　脇　豊　勝	（長命ヶ丘中）

行　財　政　部

部長　　菊　地　敬一郎

1　活動目標

（1）学校運営に関する課題の解明と適正化に努める。

（2）財務内容について検討し，経理を適正に執行する。

2　活動内容

（1）学校運営に関する研修を企画し，今後の学校経営に生かす。

（2）年間予算案を提案する。

（3）収入・支出状況の把握と中間決算報告を行う。

（4）決算報告を行う。

（5）財務内容について検討し，次年度の活動計画と予算案の作成を行う。

3　活動概要

（1）臨時校長会　　4月　5日(火)
・会務分掌　・年会費等の徴収について

（2）臨時校長会　　4月１５日(金)
・会費及び負担金等の集金　・総会資料(会計)
・活動目標　・活動計画作成
・教育公務員弘済会宮城支部の事業について
教育研究助成金（９校へ５万円）

（3）校長会総会　　4月２２日(金)
・平成２７年度決算報告及び監査報告
・平成２８年度予算の提案

（4）校長会５月例会　　5月３１日(火)

（5）第１回行財政部会　　5月３１日(火)
・研修内容の検討

（6）校長会７月例会　　7月　5日(火)
・教育公務員弘済会義援給付奨学金の事前調査
・公務員賠償責任保険加入者証の配付

（7）校長会９月例会　　9月１３日(火)
・研修
講話：「校長として押さえるべき学校事務」
講師：学校事務適正指導チーム
小野寺　康一氏
・教育公務員弘済会義援給付奨学金の申請関係

（8）中間会計監査　　9月２３日(金)

（9）校長会１０月例会　　１０月　4日(火)
・中間会計監査報告

(10) 第２回行財政部会　　１０月１３日(木)
・教育公務員弘済会義援給付奨学金の振込終了報告

(11) 校長会１１月例会　　１１月　1日(火)
・教育公務員弘済会義援給付奨学金の振込終了報告

(12) 校長会２月例会　　2月　7日(火)
・今年度活動計画の反省と次年度に向けて情報交換

(13) 平成２８年度会計監査　　3月１４日(火)

4　集金等

平成２８年
4／１５　平成２８年度中学校長会会費
全日中研究協議会・大都市連絡協議会準備基金・中学校長会創立７０周年記念事業基金
4／２２　公務員賠償責任保険加入申込
5／３１　全日中研究協議会参加費
9／　2　市中校長・私立高等学校長会連絡会参加費（会場費・懇親会費）
9／　9　市中校長・仙塩地区高等学校長会連絡会会場費等負担金
１０／　4　県市中校長会合同懇親会費
１１／２４　小中学校長会懇親会(中学校当番)
※１１／１　市中校長会１１月例会時に集金

平成２９年
1／　6　臨時校長会（昼食代）
2／　7　「宮城の中学校 70 年」誌購入費

＜行財政部員＞

部　長	菊　地　敬一郎	（南小泉中）
副部長	大曽根　眞紀子	（七北田中）
部　員	川　村　英　一	（中　田　中）
部　員	菅　原　哲　也	（七　郷　中）
部　員	小　岩　康　子	（南中山中）
部　員	菅　原　光　博	（館　　中）

生 徒 指 導 部

部長　尾 形 孝 徳

1　活動目標

積極的な生徒指導の推進と心の教育の充実
～生徒指導上の今日的課題の解明とその対策～
最重要課題として「いじめの未然防止，早期発見，早期対応」に努める

2　活動内容

(1) 生徒指導に関する諸問題の調査研究
(2) 関係諸機関との行動連携強化
(3) 学校間の連携と情報交換の緊密化
(4) 特別支援教育の現状と課題について調査研究
(5) 家庭・地域との連携による生徒の安全対策の推進
(6) 中学校体育スポーツに関する事項

3　活動の概要

(1) 第１回部会　４月１５日（金）
①正副部長の互選
部　長　尾形　孝徳（五 城 中）
副部長　山田　威彦（富 沢 中）
②活動目標，内容，活動計画，組織等の検討
前年度活動の成果と課題の確認，及び本年度組織編成，担当分掌の活動内容計画の策定
・生徒指導班（(1) (2) (5)）・研修班（(2) (6)）
・特別支援班（(4)）・部長，副部長（(3)）
③全市（各区）生徒指導主事連絡協議会，校外指導連盟，青少年対策六機関研修，小中学校生徒指導部合同部会の事業計画・運用の検討

(2) 第２回部会　７月２７日（水）
「仙台市青少年対策六機関・小中学校校長会生徒指導部会合同会議」（於木町通小学校）
パネルディスカッション
「教育相談課の相談事業の現状と課題」
パネラー:教育相談課 SSW，SC，指導主事等

(3) 第３回部会　９月３０日（金）
「仙台市小・中学校校長会生徒指導合同部会」（於木町通小学校）
事例研究
①「配慮を要する児童への支援と保護者への関わり」　大倉小学校　玉手克彦校長先生
②「震災後の中学校の現状」
秋保中学校　山家　智校長先生

(4) 第４回部会　３月７日（火）
本年度事業の成果と課題及び次年度事業検討

4　研修

(1) 学校間トラブルへの対応について
９月１３日（火）資料提供
(2) LD・ADHD 等通級指導教室について
１０月４日（火）研修部と共催
講師:五城中学校　教諭　伊藤陽子氏
(3) いじめ対策専任教諭アンケート調査
１０月１日～１０月１４日
(4) いじめ対策専任教諭の活用の在り方について
１月１７日（火）研修部と共催
区ごとの分科会形式による討議

5　関連事業

(1) 第 33 回生徒指導管外研修会（神奈川・滋賀）
平成 28 年 11 月 17 日（木）～ 11 月 18 日(金)
研修内容:視察並びに講話
○「怠学や非行等による不登校生徒への対応」
（川崎市教委学校教育部指導課）
○「子どもたちの命を守る教育」
（大津市教委児童生徒支援課）
○「いじめ対策担当教員の働きについて」
（大津市立堅田中学校）
(2) 仙台市生徒指導主事連絡協議会
・全市，各行政区部での情報交換等
・関係諸機関からの助言と情報交換
・中総体，長期休業，高校入試等での対策
(3) 仙台市校外指導連盟
・校外での生活指導と事故防止対策
（水難事故，交通事故等の防止対策等）
・中総体期間中の事故防止対策
（対策本部設置‥市内４か所）
・危険箇所確認と巡回指導，小中合同会等

＜生徒指導部員＞	
○部　長　尾形　孝徳（五　城） 仙台市校長会生徒指導部長	○部　員　石川　一博（八　軒・研　修） 要対協会委員・校外指導連盟監事
○副部長　山田　威彦（富　沢） 生徒指導主事連絡協議会副会長	○部　員　田中　亨　（折立・研　修） 要保護児童対策地域協議会委員
○部　員　小丸　信一（生出・生徒指導） 校外指導連盟会長	○部　員　齋藤　宏之（広陵・研　修） 校外指導連盟副会長
○部　員　我妻　仁　（柳生・生徒指導） 生徒指導研究会長	○部　員　清野　俊也（蒲町・特別支援） 宮城県特別支援学級設置協議会副会長
○部　員　山家　智　（秋保・生徒指導） 児童虐待防止委員	○部　員　保角　博行（鶴谷・特別支援） 要保護児童対策地域協議会委員
	○部　員　岡本　洋　（寺岡・特別支援） 要保護児童対策地域協議会委員

２　研究調査等報告
教育課題部

（１）　復興ＤＶＤに係る活用状況調査の分析とその結果

（２）　安全で安心な学校づくりのの実現
～自己肯定感低下の背景～

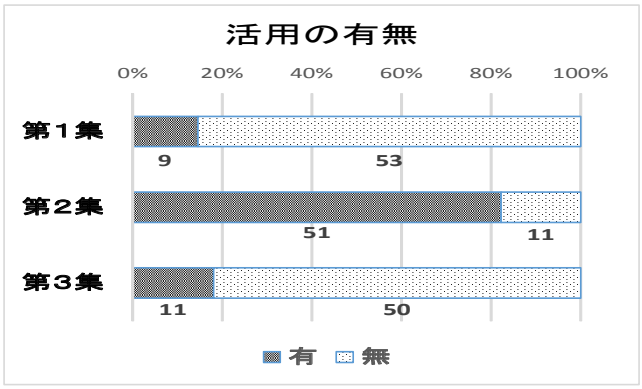
（３）　学びの連携を生かした学校づくりの推進
～保護者・地域・他校種との連携をどう進めるか～

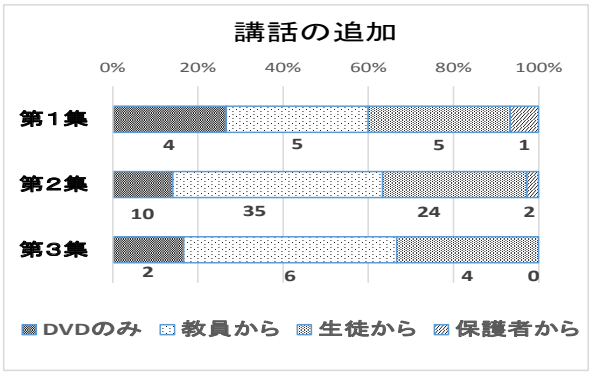
（４）　仙台市中学校・教員対象の防災教育のアンケート調査のまとめ

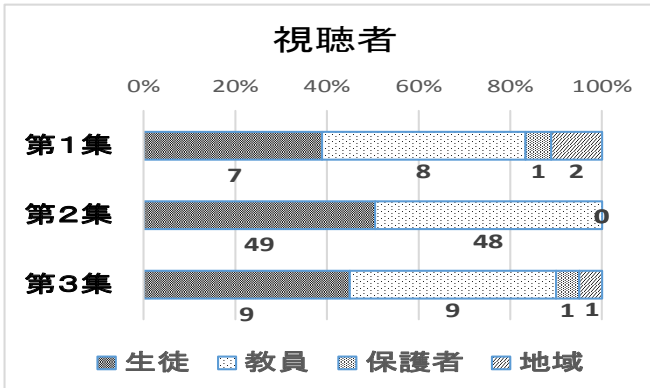
復興ＤＶＤに係る活用状況調査の分析とその結果

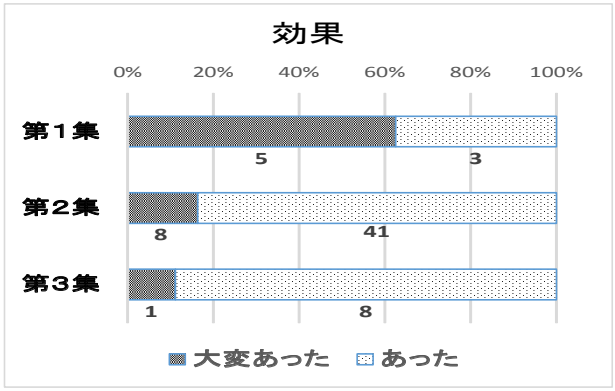
平成２６年度に第１集，平成２７年度に第２，３集を作成し，３か年で３本の復興ＤＶＤを活用することとし，平成２７年度は第２集を活用することを基本とした。その活用状況について，平成２８年７月に調査したものである。

１　平成２７年度に活用した状況（数値は学校数である。回答が複数のため，合計は一致しない。）



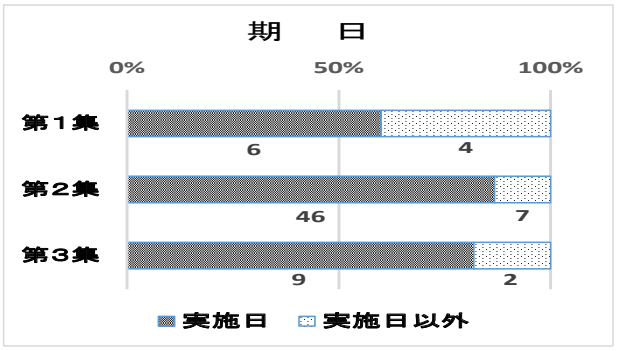






基本的に第２集が活用されており，教員，生徒等からの震災に関する話が追加されていた。視聴者には保護者，地域住民もあり多様な活用があった。活用の効果はあったといえる。

２　平成２７年度に活用した期日（数値は学校数である。）



各校においては故郷復興プロジェクトの実施日の活用が多く，みやぎ鎮魂の日（３月１１日）の前後がほとんどであった。実施日以外として，５月，９月～１月等に活用されていた。

また，故郷復興プロジェクトの実施日とそれ以外で複数回活用している学校もあった。そのため，数値は１の結果と一致しない。中には，毎月活用している学校があった。

３　活用における配慮，工夫及び課題

（１）被災した生徒等への配慮

・津波被害を目撃した生徒と保護者に事前に内容を伝え，了解を得た。
・被災生徒に津波映像を知らせ，無理をさせなかった。
・故郷復興プロジェクトへの参加の有無を確認した。
・本人が希望しない場合には，視聴させなかった。別室で過ごす機会を設けた。
・気分が悪くなるような生徒は視聴させなかった。
・津波で保護者，知人をなくした生徒，記憶を呼び戻すことで体調を崩す恐れのある生徒には本人の

希望で視聴させないようにした。
・当日の対応として，途中退席を可とし，近くに教員を配置し，退席しやすいようにした。また，教職員が共通理解を図り，備えるようにした。
・被災生徒には事前に内容を伝え参加の有無を判断させた。気分が悪くなる生徒への配慮として教職員が共通理解し，観察した。
・小学校が大きな被害を受けていたので，視聴による不安があれば申し出るよう事前に伝えた。
・開始時に黙祷を捧げた。
・津波などのシーンをカットして視聴させた。

（２）工夫
・視聴前に，校長から内容，中学生の役割を説明した。
・生徒主導の住民参加型地域防災訓練，避難所訓練，防災教育講演会等として，機会を設けた。
・釜石東中学校の取組，福島第一原発事故とその被災地の紹介をビデオを見ながら防災教育として行った。
・神戸からの激励の手紙も紹介して，視聴した。
・北神戸中への御礼として全校生徒によるモザイクアートを送付した。
・視聴と 1，2 年生，教職員で「仲間とともに」，「Believe」の合唱を行った。
・視聴後，生徒代表がメッセージを発表し，保護者，地域住民も参観した。
・教師の話を加えたことで効果が増した。
・避難所運営をした町内会長の話により復興意識が高揚した。
・２名の連合町内会長から防災活動，災害時のＡ中生への期待を話した。
・教職員の個人研修として視聴した。

（３）課題

活用しなかった理由として，被災地から避難している生徒がいるためで，悲惨な経験をした約１０名に配慮したことがあった。東日本大震災後の被災地からの転校生に対する十分な配慮であったと思われる。被災した生徒に寄り添った適切な対応から，今後の活用の在り方について，課題が示されたと言える。また，被災当時小学生であり，その後転居等で被災の程度の異なる地域で生活することになる生徒が多くなってくると思われるので，さらに配慮が必要になってくる。活用に当たっては，各校の実態に応じて，無理なく行う必要があることを再認識しておきたい。

４　効果的な活用の事例

以下のような事例が報告された。より効果的な防災教育，防災学習の参考にしていただきたい。

（１）中学生が主導して，住民参加型の地域防災訓練を行い，体育館が避難所となった。生徒が６００名，保護者，地域住民が約２００名で，防災教育講演会とＤＶＤの視聴を行った。

（２）「津波被災農家弟子入り体験」と関連させて活用した。

（３）「Ｂ中復興セレモニー」で活用した。当時の写真や動画等についても，学校で資料として整理して持っているので，必要に応じて貸し出しができる。その取組の中には，社会性の基礎となる活動や地域と連携した訓練，教科・領域における防災教育の提案等がある。

５　今後に向けて

現在，各校において，様々な実践がある程度の形として定着している感があり，貴重な資料の蓄積が進んでいると思われる。これからの社会の担い手となる中学生が経験を通して学んだことが，今後のよりよい社会を作ることに現れてくることを強く期待している。次代に生かすために，現在の取組を，適切に記録として残すことは意義がある。

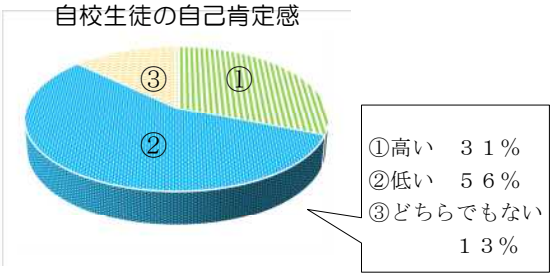
各校での資料の保管，管理及び活用を防災主任等が中心となり確実に行うことが重要である。

安全で安心な学校づくりの実現～自己肯定感低下の背景～

本アンケート調査は，各校における生徒の自己肯定感の低下について仙台市生活・学習状況調査の結果を基に，その背景を考えつつ，自己肯定感を高めるための各校での取組などを共有し，今後に生かすことを目的に実施したものである。

回答率　６４校（１００％）

Ⅰ　自校生徒の自己肯定感についてどう思うか。



①【高い】２０校
（理由）・各種調査結果から
・学校行事への取組の様子から
・ボランティア活動への参加
・地域との関わりの様子から
・学習・部活動への取組の様子から　など

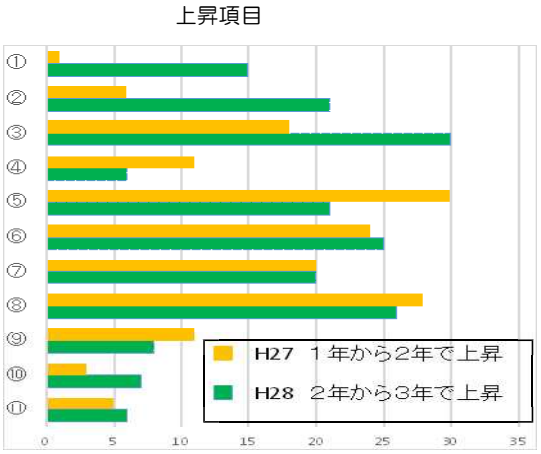
②【低い】３６校
（理由）・各種調査結果から　・学習状況から
・自信のない様子から　・家庭環境から
・不登校が多いことから　など

③【何とも思わない，どちらでもない】８校
（理由）・学年による差　・家庭環境による差
・高い生徒，低い生徒どちらもいる　など

Ⅱ　平成27年度と平成28年度の「仙台市生活・学習状況調査」結果から

(1)各校で肯定率が上がった項目について

（上がった割合の大きなものから３項目）



①自分の夢をかなえるために，たくさん勉強する。
②自分が世の中の役に立てるように，勉強を頑張る。
③家の人に，話をしっかりと聞いてもらっている。
④人の役に立つ人間になりたいと思う。
⑤人が困っている時は，進んで助けている。
⑥自分には，良いところがあると思う。
⑦難しいことでも，失敗を恐れないでチャレンジしている。
⑧みんなと意見が違っていても，自分の意見を話す。
⑨物事を最後までやり遂げて，うれしかったことがある。
⑩将来の夢や目標を持っている。
⑪自分の将来を考えると，楽しい気持ちになる。

(2)肯定率の上昇につながったと考えられる取組

② 「自分が世の中の役に立てるように，勉強を頑張る」（２年→３年）についての取組事例
・ボランティア活動，地域活動を推奨する。
・職場体験学習を通して社会と自分との関わりを考えさせる。

③ 「家の人に，話をしっかり聞いてもらっている」（２年→３年）についての取組事例
・学年，学級だよりで家庭で話題にしてほしいことを掲載する。
・保護者に，子供に自信を持たせるような話をしてほしいと伝える。
・家庭での会話の必要性を伝えている。

⑤ 「人が困っているときは，進んで助けている」（１年→２年，２年→３年）についての取組事例
・ボランティア活動，地域活動を推奨する。
・道徳の授業を含めた心の教育に力を入れる。

⑥ 「自分には，良いところがあると思う」（１年→２年，２年→３年）

⑦ 「難しいことでも，失敗を恐れずチャレンジしている」（１年→２年，２年→３年）についての取組事例
・様々な場面での生徒の取組を認め，賞賛する。
「ホメホメカード」を利用する。
家庭で子供を認める会話をするよう呼び掛ける。
・学校行事で，実行委員など役割を持たせる。
・地域行事で，地域の方々から声掛けをしてもらう。

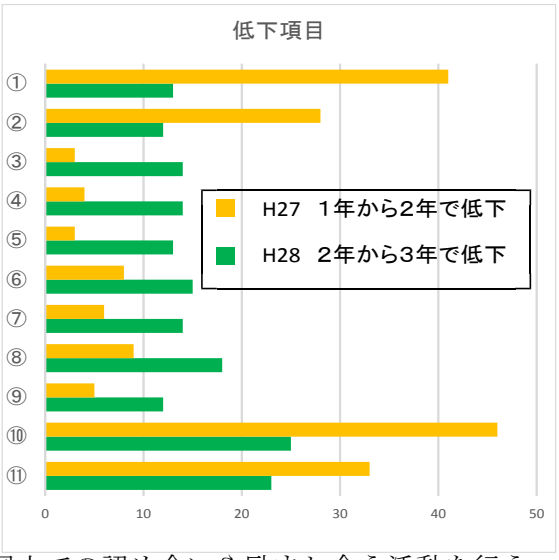
⑧ 「みんなと意見が違っていても，自分の意見を話す」（１年→２年，２年→３年）についての取組事例
・話し合い活動を多く取り入れる（グループ学習，縦割りグループでの話し合い活動）
・様々な場面での生徒の取組を認め，賞賛することで自信を持たせる。

(3)各校で肯定率が下がった項目について

（下がった割合の大きなものから３項目）

２年生になり，肯定率が大きく低下したものとして，①自分の夢をかなえるために，たくさん勉強する，②自分が世の中の役に立てるように，勉強を頑張る，⑩将来の夢や目標を，持っている，⑪自分の将来を考えると，楽しい気持ちになる，が多く挙げられている。また，⑩，⑪は３年生でも低下している。

①，②は学習に関する項目である。入学当初は学習に対する意欲を持っていた生徒も，２年生になると中学校の学習の厳しさに直面し，次第に学習に対する抵抗感を持つ生徒が多くなることが分かる。⑩，⑪はいずれも「将来」に関する項目である。



(4)自己肯定感を高めるための取組

［**学校行事で**］

・行事での肯定的ストロークによる声掛けや指導，友人同士での認め合いや励まし合う活動を行う。
・学年生徒が全員で踊るダンスで互いに励ましながら練習し，成果は文化祭で発表。また，３年生を送る会で１，２年生がダンスを披露し,次の代を担う決意表明をしている。
・生徒たちによる行事の企画や部活動への積極的な取組。・個々の生徒が活躍できる場面を設定する。
・一人一役を担って巨大壁画を作り上げる。　・心のケアを目的とした講演会を開催する。

［**授業で**］

・授業を中心とした多くの場面で，生徒一人一人が活躍でき，周りに認められる学級づくり，学校づくりを継続して推進していく。　・学活や道徳で，自己肯定感を高める授業を行う。
・授業で自信を持たせるように，グループなどで教え合ったり，話し合ったりする場面を取り入れる。

［**生徒会・委員会活動で**］

・生徒会主催による「ありがとうの花」「ほめほめシャワー」（生徒同士が認め合う活動）を行う。
・個々の生徒の役割を明確にし，相互評価させる。
・「笑顔・挨拶・ありがとう」の実践。毎朝校門前で職員や生徒会，部活動で取り組む。
・生徒の主体性を生かした諸活動を企画し，運営に際しては，協働的な活動場面を随所に設定する。

［**地域との関わりで**］

・学校以外の人と関わる行事を大切にする。　・地域の方々と協力して行う行事に参加する。
・地域・小学校と協力して行う行事を持つ。　・小中合同防災訓練やボランティア活動に参加する。
・親や教師以外の人と関わり，認められ，励まされることが自己肯定感を高める大切な機会となる。

［**その他**］

・ノー部活デーによる相談活動（担任が意識して生徒をほめ認める活動）を行う。
・全ての教育活動が生徒の自己肯定感を高める機会であることを教員が意識して指導,支援に当たる。
・生徒の活動が自主的になるよう，教師側が事前準備をしっかりすることと，全校，地域で同じベクトルで取り組めるようコミュニケーションを取ることが大切である。
・ファイナンスパーク学習などの自分づくり教育に力を入れ，将来に対して前向きに考えさせる。
・役割分担により，与えられた仕事を責任をもって果たし，達成感，自信を持たせ，次へ挑戦する意欲を高めさせる。
・縦割りグループによる話し合い活動を行う。
・生徒同士の教え合いや自分の考えを表現させる活動を多く取り入れ，周囲の評価を得る。
・進路学習や職場体験学習などを通し，視野を広げさせていく。
・一人一人の生徒を大切にすること。日々の教育活動の中で達成感や満足感を味わうことができるように仕組んだり，数多くの成功体験を積ませたりする。

今後の課題

仙台市生活・学習状況調査の結果の数値を見ると，全体的にはこれまで低下が顕著であった「自分には，良いところがあると思う」などの肯定率が，今年度は震災前の数値まで回復を見せている。

本調査の結果からは，自己肯定感に関わる項目の肯定率が上昇している背景には，Ⅱ(2)で見られたように，各校で，学校行事，生徒会活動などで，一人一人が活躍できる場面を設定することや，ボランティア活動，地域行事に積極的に参加させることなどを通して，生徒を認め，褒め，自信を持たせる様々な取組，工夫を行っていることが分かった。しかしながら，一方で低下している項目，特に将来に夢や目標を持つなど，前向きな気持ちを持たせることにつながる取組については，更に工夫していく必要があり，今後，家庭や地域と共に考え，継続的に取り組んでいかなければならない課題と言える。

学びの連携を生かした学校づくりの推進～保護者・地域・他校種との連携をどう進めるか～

本稿は，現時点での各中学校区内での学校支援地域本部の設置状況や各種連携活動の現状を把握するために実施したアンケートの集約結果と分析の概要をまとめたものである。改善策等については今後深めていく。

＜回答率６５校中５８校（８９．２%）＞

０．基礎情報

（１）地域連携担当者数

担当者数については２名が２６校と最も多い。担当者数と学校規模との相関関係は薄く，各校の活動の内容等に依るところが大きいと判断できる。

（２）担当名称と役割等

担当名称については分掌上「地域連携担当」という名称での配置である。小中連携と兼務の場合もあるが，連携担当として地域連携担当・小中連携担当と分けて配置している学校が多い。

（３）地域連携担当者の校内での分掌

地域連携担当者総数１４７名の学校内での立場は，担任が最も多く４０名となっている。次いで，渉外的な仕事に長けている教務主任や主任，地域との接触の多い生徒指導主事や教頭が当たっている。連携内容の特殊性から，英語担当の教諭や防災主任等が担当している場合も見られる。

（４）地域連携の担当者の同一校の在籍年数

地域とのつながりの点から地域の現状をよく把握している比較的在籍年数の長い職員の担当が予想されたが，１・２年経過の約３０名をピークにして次いで１年未満・３年経過の約２０名と続いた。

１．学校区の学校支援地域本部について

（１） 設置状況等

＜中学校＞

設置状況については約半数の５４%が小学校との合同設置あるいは単独設置をしているものの，２７校については未設置である事が明らかとなった。設置校でのスーパーバイザー数については１～２名がほとんどを占めている。役職については学校評議員やPTA関係で約７０%を占めている。

設置形態	校数
合同設置	16
単独設置	15
未設置	27
合計	58

＜小学校＞

中学校区内の小学校数は１～３校のところが殆どを占めており，それ以上のところは極めて少ない。連携の際は学区内小学校数が多ければ多いほど調整が困難であり，地域連携や小中連携の際に多くの労力を必要とし，連携が図りづらい現状がある。

設置状況については，合同単独含めて７６校７３%を占めており，中学校に比べて設置率については２０%以上高く，学校支援地域本部の活用も盛んな様子がうかがえる。スーパーバイザー数については，中学校との同様に１～２名の配置である。また，役職等についても評議員関係やＰＴＡ等の関係で約７０%を占めている。

設置形態	校数
合同設置	16
単独設置	61
未設置	27
設置予定	1
	105

（２） 学校支援地域本部の活動内容

① 中学校が活用している内容について

A：地域の人材活用

ア 授業支援 ファイナンスパークボランティア 教科指導 国語：書写 音楽：ギター指導・神楽の指導・箏の指導 保体：柔道 家庭：被服・調理実習

イ 学校行事支援 ファイナンスパークボランティア 職場体験関係：見守り・職場体験場所の斡旋・職業講話講師の人選 体育的行事：校内マラソン大会の監視・運動会，体育祭等補助・スポーツ大会で豚汁提供 文化的行事：文化祭補助・合唱コンクール伴奏補助・かるた大会講師派遣依頼・合唱コンクール交通指導 その他：プール監視員・蕃山登山案内・合同防災訓練・福岡鹿踊・剣舞保存会・篠笛・踊り指導

ウ 部活動支援 外部コーチ・技術指導補助：ソフトテニス・バドミントン・卓球部・サッカー・野球部

エ その他 キャリア教育の講師，職場体験活動事後指導ワークショップ支援 学習指導：放課後補充学習での個別指導・休業中の学習室開催・補助学習の採点ボランティア 実技指導：凧作りの指導・花植え 3年生受験の面接指導 被災地訪問活動 浄書 補助 給食配膳 プール清掃や校庭整備への協力 プール監視員紹介 秋保温泉旅館組合への支援要請 登下校時の通学路の安全指導

B：地域イベント 夏祭りのボランティア 夏まつり中学校ブース運営補助 地域祭りの補助 市民センター祭り 地域文化祭の学校展示 若林区民まつりへの生徒の参加支援 冠のふるさとまつり凧揚げフェスタへの参加

Ｃ：地域内ボランティアの仲介　ファイナンスパークでのボランティア募集窓口　　小学校・中学校の各行事等のボランティアの仲介
プール開放監視員の仲介　賞状の浄書ボランティア

② **特色があるもの・工夫している点**（参考掲載）

A中：中学校区４校がそれぞれの地区に伝わる伝統芸能を披露する「冠のふるさと伝承まつり」が毎年開催され，学校・家庭・地域が連携を強めている。その祭りを通して，児童生徒に郷土が現在まで培ってきた伝統文化にふれさせ，地域の一員としての自覚をもたせている。

B中：「B 中学校支援希望依頼書」があり，支援希望の目的・日時・内容・人数等を記入し所定のボックスに入れたものをコーディネーターが回収し，相談・支援を行うというシステムになっている。

C中：特に小学校でのボランティア活動は，例年参加者も多く地域や小学校から好評である。体力テストのボランティアは，中総体の振休日に設定することで，生徒が参加できるようになっている。ボランティアカードを作成し，生徒が地域の活動に参加したときには町内会長や児童センター・小学校の先生方にはんこを押してもらうシステムになっている。カードは学期末に担任に提出し，ボランティア活動への参加状況を報告する。

③ **課題と思われる点・解決に向け取り組んでいること**

【中学校のニーズ・活用状況・負担感】

○中学校では，それほどニーズが無い。どうしても小学校を主体とした活動になっている。

○小学校と違い，中学校での授業支援でボランティアを必要とする場面が少ないこと。

【教員の意識の高揚・体制づくり】

○教職員の意識，理解が低いと考える。そのために，地域連携推進担当が，教職員向けに学校支援地域本部の活動等の情報をたよりで提供している。

【小学校との連携活動に係る困難な状況等】

○中学校区に６校の小学校があり，そのうち５校が他の４つの中学校と指定変更が可能である。小中の学びの連携を構築し実施するには，調整が非常に厳しい状況にある。

【人材確保について】

○次期スーパーバイザーの選出と地域支援員の確保。

○スーパーバイザーの人選に苦労し，何とか引き受けてもらったが，仕事等が忙しく活動が滞ってしまった。

【活動内容の精査・運用上の課題】

○学校支援地域本部，ＰＴＡ，学区地域連携教育推進協議会のそれぞれの役割とその分担を明確にすること。

○学習支援を中心に活用を図っていきたいと考えているが，今後は部活動や環境整備にも活用を広げていきたい。

【連絡調整・意思疎通・広報】

○地域の諸行事と関わる事業における連絡調整が，うまく機能しない場合があるので，地域連携担当教諭を窓口にしながら，連絡を密に取り合い円滑に活動できるように努力している。

○スーパーバイザーの意識・意欲が大きく活動に影響する。

【財政面での課題】

○市の施策の一環であるので，学校支援地域本部設置を希望する学校には全て予算措置が必要。

分析

運用上の課題も多数あるが，そもそも中学校としての活用のニーズが少ないことや，内容によっては依頼を躊躇してしまったり，段取り等に負担を感じてしまったりしていること，教員の意識の低さや，物理的な状況，中学校区として抱える問題など多種多様な課題があることが明らかとなった。課題解決に向けた議論を踏まえた方策の提示や，先進的な取り組みを実施している学校の事例を参考に知見を共有していく。

２．保護者・他校種間・地域との連携について

ここでは，それぞれの連携活動において課題と思われる点を，カテゴリー別にまとめたものの概要を記載した。

（1） **保護者との連携**　参加者数が少ない，参加協力できる方が限定しているなど参加数についての課題や理解を得るための周知の方法等の意識改善に向けての課題を挙げているケースが多い。運用上の課題としては日程調整の難しさや役員会議（夜間）の負担，役員の継続性がないことが挙げられた。

（2） **他校種間連携**　圧倒的に多いのが日程の調整等に係る課題である。小中学校いずれも日常的に多忙な状態が推測され，時間の確保に苦慮している様子がわかる。学区内の学校数や距離的な問題等根本的な部分での問題も散見される。連携についての職員内で温度差等，意識格差を課題とする意見もある。

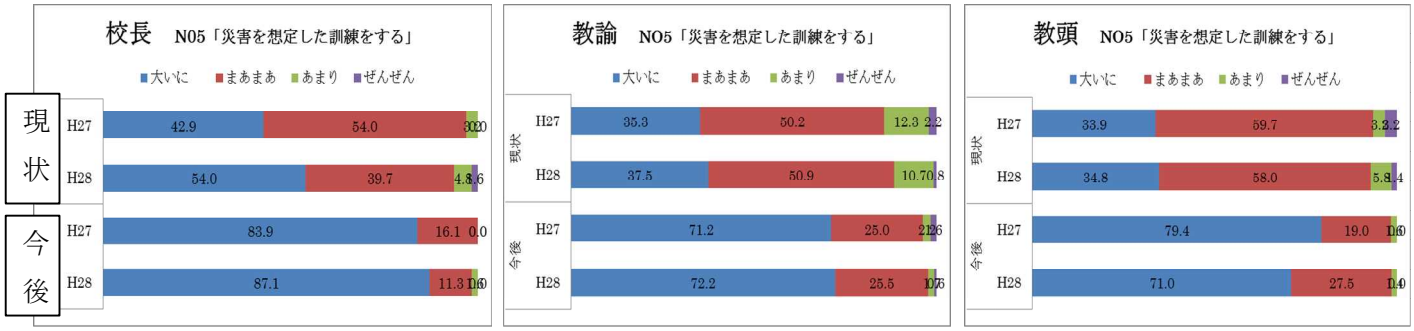
（3） **地域連携**　日程等に係る課題は他校種間連携に比較して少ない。学校内活動への地域からの支援の他，地域での中学生の貢献できる場を設定する等の他，複数の連合町内会にわたる中学校区の場合の連携の在り方に関してより工夫が必要である。

仙台市中学校・教員対象の防災教育のアンケート調査のまとめ

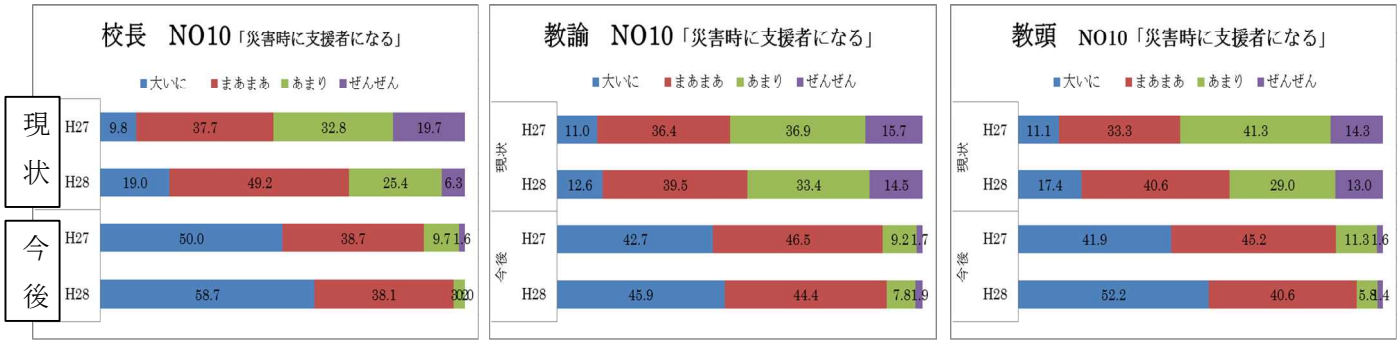
本調査は，平成２５年度に仙台市立中学校の全校長と平成２７・２８年度に仙台市立中学校の全ての校長・教頭・教諭を対象に行った調査である。調査回収率は，教諭が平成２７年度に７３．２％，平成２８年度は７５．０％であり，校長と教頭については両年度ともにほぼ100％である。

１，防災教育の目的内容に関する調査の分析結果

（１）　H27・H28 年度ともに，校長・教頭・教諭の職名にかかわらず，防災教育の現状も今後も「災害を想定した訓練」,「防災対応能力の育成」,「防災意識を高める」を重要な目的と認識している。さらに教諭の各年代でも，ほぼ差異なく上記３つの目的が，現状・今後ともに重視されている。

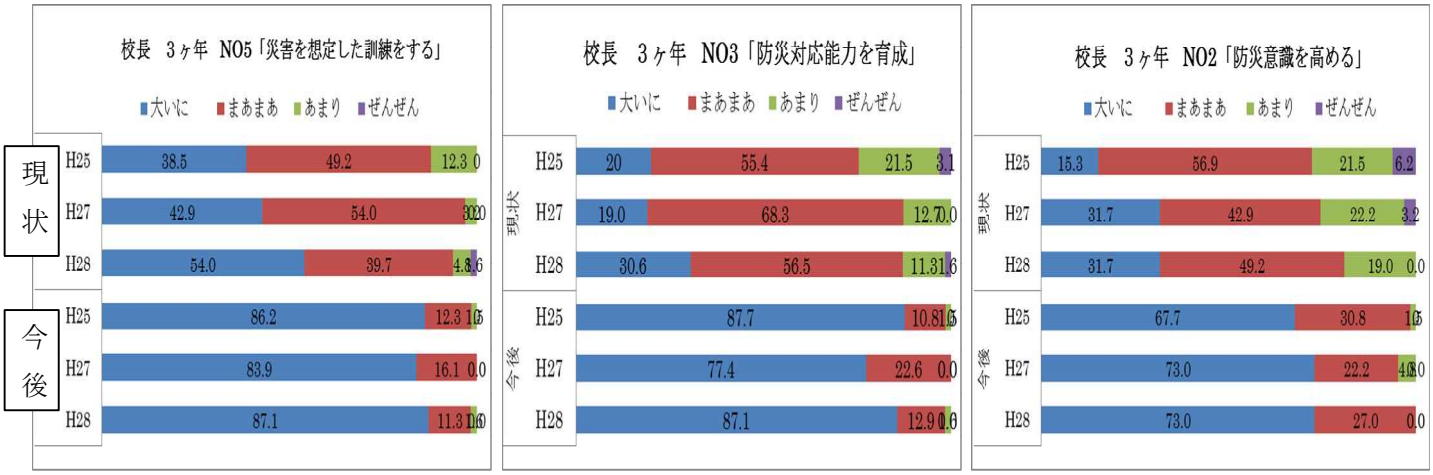


①　防災教育の現状を鑑みて，今後より重視すべき目的は，H27・H28 年度ともにほぼ職名にかかわらず「災害時に支援者になる」，次いで「災害を疑似体験する」ことが重要な防災教育の目的であると考えている。このことは，教諭の各年代でもほぼ同様の結果であり，今後さらにこれらの目的を防災教育において取り組んでいく必要性がある。

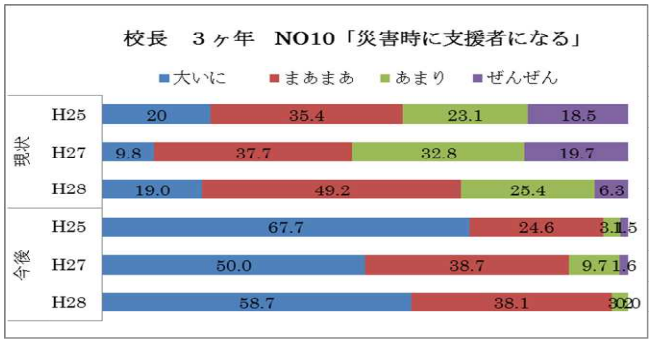


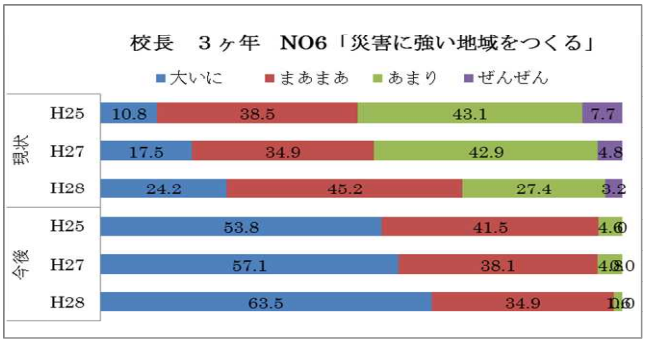
②　H25，H27，H28 年度の校長に対する調査の結果比較では，

ア　防災教育の目的の現状も今後ともに，年度にかかわらず，３つの目的「災害を想定した訓練」「防災対応能力の育成」「防災意識を高める」を重視しており，継続されている。



イ　年度ごとの防災教育の目的における現状と今後の比較では，３か年ともに上位に「災害時に支援者になる」「災害に強い地域をつくる」目的を重視しており，校長は現状を踏まえて今後さらに強めたいと考えている目的となっている。このことから校長は，生徒が災害時に支援者になり，災害に強い地域をづくりに貢献することを今後さらに強めたい目的として考えており，学校と地域の関わりを意識している。また，年度で相違が見られるものの次に高めたい上位の目的は，H25 が「防災に役立つ資料づくり」で，H27 が「災害を疑似体験する」，H28 が「防災対応能力を育成」となり，違いが見られる。



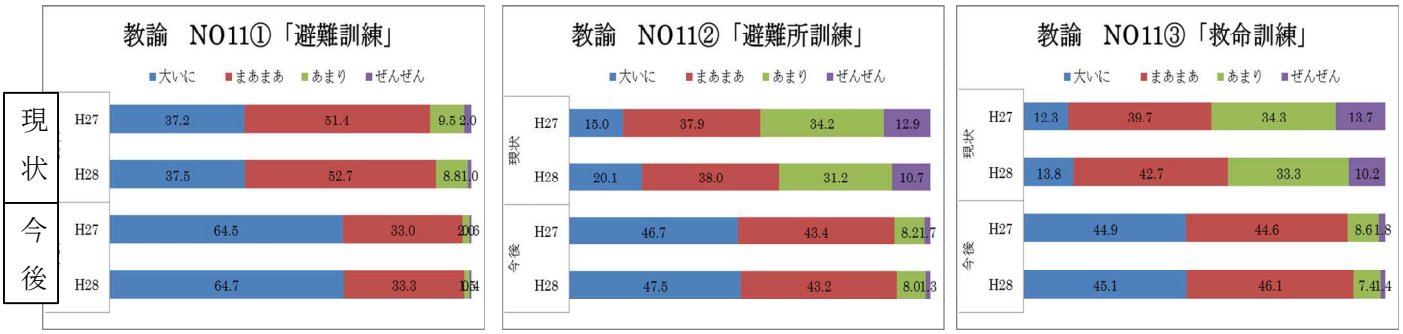


ウ　防災教育の目的の現状間と今後間について３か年度の間で比較すると，H28 では現状もいずれも１位が“災害時に支援者になる”ことが，年を経て現状・今後ともに高まっている目的である。このことから，校長は生徒が災害時に支援者になる目的を達成するため，今もこれからも最も強めたい防災教育の目的と考えている。

		１位	２位	３位
現状間の比較	H27 現状－H25 現状	知識を深める　＋8.8	技術を身に付ける　＋7.0	防災意識を高める　＋5.4
	H28 現状－H27 現状	災害時に支援者になる＋10.8	災害を疑似体験する　＋10.3	遊び・楽しみながらの防災＋8.0
今後間の比較	H27 今後－H25 今後	災害時に支援者になる－6.6	防災に役立つ資料づくり－5.1	技術を身に付ける　－2.9
	H28 今後－H27 今後	災害時に支援者になる＋4.6	遊び・楽しみながらの防災＋4.3	防災対応能力を育成する　＋2.4

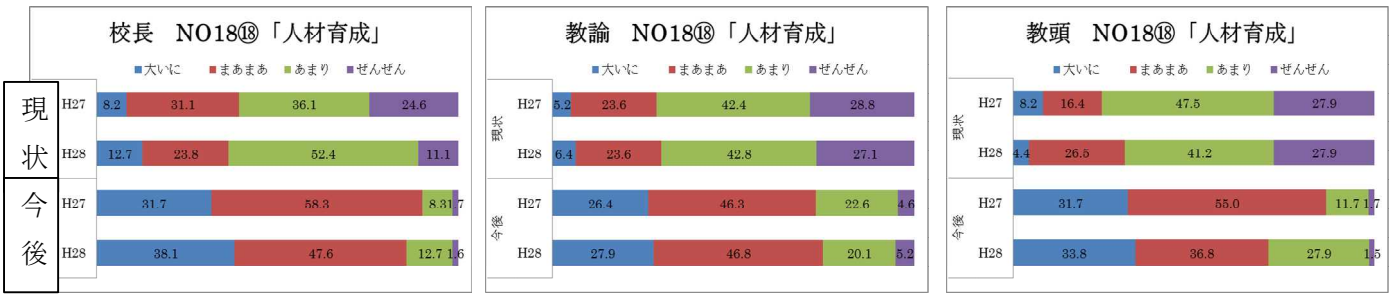
２，防災教育の実践内容に関する調査の分析結果

（１）　校長・教頭・教諭の職名にかかわらず，防災教育の現状も今後も，「避難訓練」が最も必要な実践であり，次いで「避難所訓練」となっていることから，これらの訓練が重視され続けている。また，教諭の年代による相違もほとんどなく，避難訓練，避難所訓練，救命訓練を重視している。



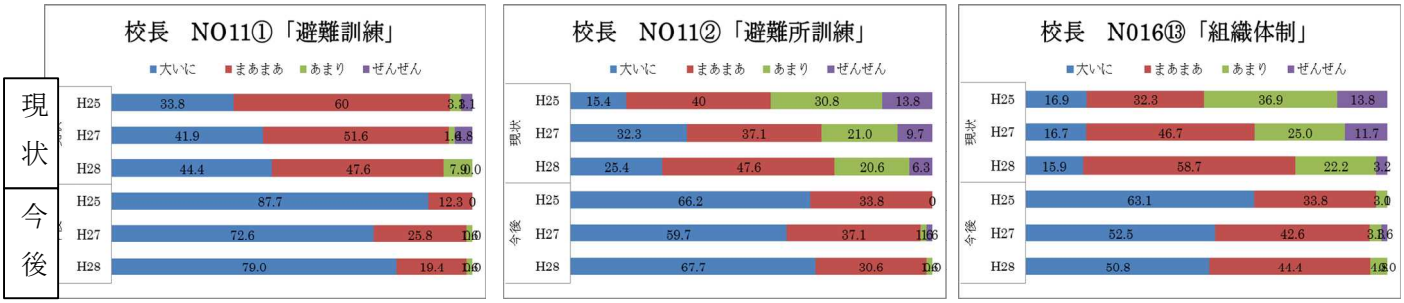
（２）　防災教育の現状を鑑みて，今後より重視すべき目的は，ほぼどの職名においても防災リーダー等の「人材育成」の実践であり，ボランティア活動などの「奉仕体験」である。

教諭の年代毎の比較からは，２０代が「救命訓練」，他の年代が「人材育成」を最もこれから取り組むべき実践であると考えており，次いで強めたい実践についても年代で差異が見られる。



（３）　H25，H27，H28 年度の校長に対する調査の結果比較では，

①　防災教育の現状も今後ともに，年度にかかわらず「避難訓練」を最も重視し，次いで「避難所訓練」と「組織体制」をこれからの取組として強めたい意向が見られる。



②　年度ごとの防災教育の現状と今後の比較では，H25・H27 年度の１位が「人材育成」であり，H28 は１・２位が僅差で１位「奉仕体験」，２位「人材育成」となり，現状を踏まえて今後さらに強めたい実践である。次に強めたい実践は，H25 が２位「キャンプ体験」で，H27 が２位「奉仕体験」であることから，おおむね「人材育成」と「奉仕体験」が現状と今後の差が３か年の調査で大きい。校長は現状を鑑みてこれからより推進を図りたいと考えている実践して，人材育成と奉仕体験であることが分かる。

③　防災教育の現状について３か年の調査結果を比較すると，現状では DVD や映画などの「学習材」や「視聴調査」だったりしている。今後の比較からは「備蓄食材栽培・加工」が年を経て必要性が低いものから高い実践へと変容している。しかし，以下に示したように調査結果にはまちまちの実践が年度によりあげられている。

		１位	２位	３位
現状間の経年比較	H27 現状－H25 現状	⑦学習材　19.3	②避難所訓練　8.8	⑭防災教材　8.1
	H28 現状－H27 現状	⑩視聴調査　9.1	⑧施設見学　8.3	⑪実験等　6.7
今後間の経年比較	H27 今後－H25 今後	⑳備蓄食材栽培・加工－6.7	⑲指導教材－6.4⑦学習材　6.4	④キャンプ体験－6.3
	H28 今後－H27 今後	⑳備蓄食材栽培・加工 7.0	⑩視聴調査　6.3	⑲指導教材　4.6

３，防災教育の目的・実践の相関分析

（１）職名毎に防災教育の“現状”間での相関分析

①　**教諭：２か年の相関分析⇒**教諭は防災教育の現状において，ハザードマップなどの防災に役立つ資料づくりや防災対応能力を育成し，災害に強い地域をつくることを，防災教育の目的として意識を強めていると考えられる。

②　**校長：２か年の相関分析⇒**校長は防災教育の現状において，防災に役立つ資料づくりや災害を疑似体験することにより災害に強い地域をつくることに意識を強めていると考えられる。

③　**教頭：２か年の相関分析⇒**教頭は２か年の相関分析であまり変容が無く，防災に役立つ資料づくりによって他の目的の成果を高めようと意識している。

（２）職名毎に防災教育の“今後”間での相関分析

① **教諭：２か年の相関分析⇒**目的⑥“災害に強い地域をつくる”については，H28 年度には１０の目的の内で９の目的と相関を示しており，教諭はこの最も中心的な目的として関心を持っていることが分かる。次いで教諭は目的②“防災意識を高める”目的⑨“防災に関する知識を深める”目的⑩“災害時に支援者になる”がいずれも７つの目的と相関を示し，震災から時が過ぎるほどこれらの目的の重要性を感じている。

② **校長：２か年の相関分析⇒**校長は H27 に１５の相関を示していたが，H28 には１つの相関を今後の目的間で示しており，目的間の関連性を弱めている。しかし，H28 調査で唯一相関関係を示した目的間からは，校長は災害を疑似体験することで災害の恐怖や不安を呼び起こし，災害を想定した訓練をより意欲的で真剣みを帯びた訓練に繋げようとしている。

③ **教頭：２か年の相関分析⇒**目的⑧“防災に役立つ資料づくりをする”では，H27 で１つだった相関を示した目的間が H28 で４つの目的間に増え，他の目的を達成するために，震災から時が過ぎるほど防災に役立つ資料づくりの必要性を強めていることが分かる。

平成28年度 教諭(校長・教頭以外) 防災教育の目的「今後と今後」間の相関分析

目的	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1		1.00	0.99	0.30	0.45	0.43	0.38	0.38	0.39	0.42
2			0.50	0.35	0.45	0.43	0.39	0.40	0.49	0.45
3				0.22	0.49	0.44	0.34	0.37	0.40	0.39
4					0.24	0.38	0.46	0.50	0.38	0.32
5						0.49	0.38	0.36	0.40	0.40
6							0.50	0.56	0.49	0.43
7								0.58	0.47	0.42
8									0.51	0.44
9										0.47
10										

平成28年度【校長】防災教育の目的「今後と今後」間の相関分析

目的	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1		0.16	0.05	0.32	0.22	-0.10	0.27	0.23	0.23	0.11
2			-0.05	0.25	0.16	0.24	0.11	0.34	0.39	0.35
3				-0.18	0.34	0.05	0.20	0.10	0.09	0.02
4					0.16	0.23	0.30	0.26	0.28	0.26
5						0.28	0.51	0.30	0.27	-0.01
6							0.34	0.22	0.24	0.24
7								0.33	0.14	0.11
8									0.18	0.24
9										-0.23
10										

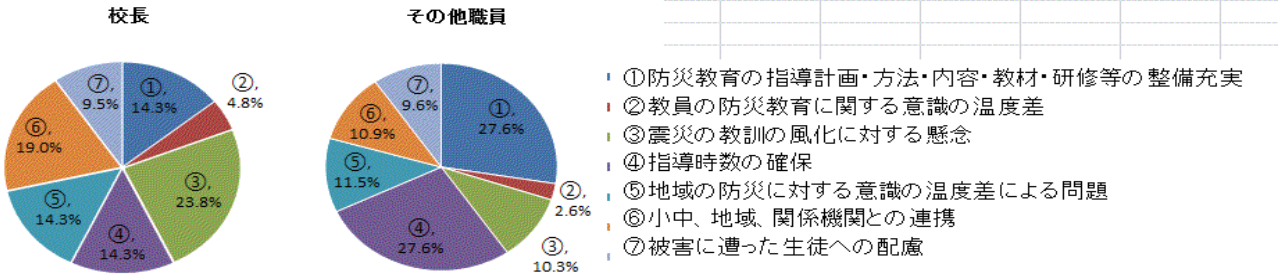
平成28年度【教頭】防災教育の目的「今後と今後」間の相関分析

目的	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1		0.50	0.37	0.35	0.25	0.34	0.36	0.47	0.23	0.34
2			0.39	0.16	0.13	0.25	0.19	0.49	0.17	0.11
3				-0.19	0.41	0.53	0.03	0.39	0.26	0.07
4					0.03	0.12	0.54	0.42	0.22	0.16
5						0.44	-0.04	0.18	0.32	0.09
6							0.18	0.35	0.27	0.19
7								0.56	0.20	0.16
8									0.32	0.27
9										0.27
10										

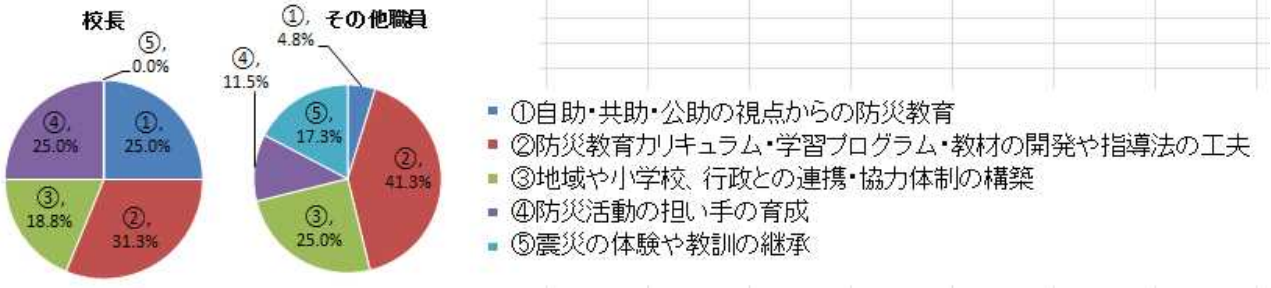
４，平成２８年度・記述調査のまとめ

記述調査３が７分類，４が５分類について，それぞれ校長とその他職員に分けてグラフ表示を以下に示す。両者において，各分類とその割合が大きく異なっており，校長とその他職員の考えや意識にずれがあることが分かる。

調査３「防災教育を推進する上での課題や問題等についての意見の割合」



調査４「これからの防災教育に期待することについての意見の割合」



発　行　　平成２９年　３月　１日

発行者　　仙台市中学校長会
　　会　長　熊　谷　祐　彦

編集者　　仙台市中学校長会情報部